

和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条

1 本時の目標や学習課題を明確に示す。

授業は、目標の達成を目指し、児童生徒の実態に即した計画を立てて実施するものです。児童生徒から疑問を引き出し、解決の見通しをもたせ、授業で「何を学ぶのか」「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「何ができるようになるか」を捉えさせた上で、本時の目標や学習課題などのめあてを黒板等に示すことが大切です。

そうすることで、児童生徒が主体的に学習に向かうことができるようになります。

留意点

本時の目標や学習課題は、学校の取組や各教科等の特質に応じて**適切に示すこと**が大切です。また、児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、自主的な学習を促す工夫も大切です。

【めあての示し方の例】

「○○を使って□□することができる」

「○○のために□□しよう」

「○○をするにはどうすればよいだろうか」

など



2 自分の考えを表現する活動を取り入れる。

児童生徒に自分の考えをもたせるためには、適切な発問や手立てが必要です。さらに、活動の目的を明確にした上で、自分の考えを書かせたり、説明させたり、話し合わせたりするなど、表現する活動を取り入れることが大切です。

そうすることで、児童生徒が自分の考えを広げたり深めたりしながら、各教科等で育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようになります。

留意点

児童生徒に、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けさせるためには、**全ての教科等**で、自分の考えを表現する活動の充実を図ることが大切です。また、活動の**目的や、学習過程での位置付けを明確にすることが**大切です。

【自分の考えを表現する活動の例】

「納得してもらうために、理由を挙げて書く」

「考えを伝えるために、資料を提示して説明する」

「共通点を見つけるために、複数の人と話し合う」

「考えを一つにまとめるために、思考ツールを用

いて話し合う」

など

※発達の段階に応じた活動を設定しましょう。



3 自身の学びを自覚できるまとめ・振り返りを行う。

授業の終末では、児童生徒に「本時の目標は達成できたのか」「学習課題は解決できたのか」「次なる課題は何なのか」などについて、まとめ、振り返らせることが大切です。

そうすることで、児童生徒が自身の学びや変容を自覚し、自主的に学ぶ態度を身に付けることができるようになります。

留意点

まとめ・振り返りは、時間を確保しつつ、指導者の板書を写すだけではなく、児童生徒が**自分の言葉で書けるように、視点を設けるなどの手立て**が大切です。いくつかの視点の中から1つを指定して、振り返らせることも考えられます。

【まとめ・振り返りの視点の例】

○学んだこと

○できるようになったこと・がんばりたいこと

○友達の発表などを通して気付いたこと

○他の学習や生活に生かせること

○新たに疑問に思ったこと

など

